

佐渡市



農業委員会 だより

No.35

令和4年11月

編集・発行

佐渡市農業委員会

63-5115

一発行人一

会長 山本 利雄



小木地区(井坪)の収穫間近のミカン畑

地域・集落の 課題と農地維持



農地部副会長

中川 治

田んぼや畦道で農家の方と話をすると、担い手や農地維持についての話がいつも出てきます。特に集落内の農地について、今後どの様に誰が継続維持していくかが課題となります。集落の維持も人口減少の中では、難しい課題となります。

現在、農地の維持と担い手への農地集約を図るため、羽茂地区の中で法人組織の設立が検討されています。中山間地における集落営農については、担い手不在の中で兼業農家が主体となつて水田の維持と農地の保全がされますが、個々では農地継続は厳しいものとなつていきます。

地域では農業者の減少が続く、少人数で農地を維持し、これ以上の面積を耕作しなければ

ならなくなっています。

また、農地の集約についても規模拡大をしていくことが今後の維持管理には必要です。農業委員会や関係機関では、人・農地プランを進めています。プランの中では地域の話し合いを実施し農地の利用最適化を進めています。

地域や集落の中で担い手への農地集積・集約を進め、遊休農地の発生防止と解消に取り組むことを進めていきたいと考えています。

今後は新規参入者の受け入れを積極的に進め、農地の維持をすることが重要です。園芸の導入も農地の活用と多様な担い手を確保のためには必要と思われます。

「耕されている農地を、耕せるうちに、耕せる人に繋いでいく」この活動を農業委員会では実施していきますので、地域や集落の皆様の協力をお願いいたします。

三条市農業委員会 との意見交換会



会長職務代理者
金田勝廣（佐和田地区）

令和4年7月7日に三条市農業委員会の御一行様25名が佐渡市へ視察に訪れ、農業委員会について意見交換会を実施しました。

議題として二項目あり、第一項目として、農業委員会の状況と最適化活動の日標設定です。

農業委員会の状況では農業委員等の委員数、耕地面積、遊休農地面積あるいは担い手への集積面積等々で話し合う。とりわけ農業委員や農地利用最適化推進委員について、両委員会とも女性委員の員数が少ないです。全国的にも、どの委員会でも女性委員が少ないため、農水省では増員するように呼びかけています。最適化活動の日標については、農地の集積、遊休農地の解消、新規就農者の促進等で過去の実績を踏まえ、日標を設定しています。

また、活動を行う日数の日標については、今年度から新たに制度化されたもので、各委員から数値目標の報告を

受け、一律設定しています。

佐渡市では、新たに農事相談会を試行しており、各地区で7月、8月に4回実施しました。4回の実績として約20名から相談を受けました。

第二項目の下限面積の設定について、佐渡市では全国第2番目に設定しており、平成26年4月から1㌥以上の農地であれば購入等可能になりました。以前は20㌥以上でなければ農地を取得できなかったのが、1㌥設定により、空き家対策にも大いに貢献しています。実績として約60人が空き家を購入し、隣接する農地も併せて取得して、自家用野菜等を栽培しており、野菜の栽培方法について近所の農家の方々と話し合い交流の場になっています。

この制度は、空き家対策や遊休農地の解消にもつながり、大いに活用してもらいたいです。



農地の荒廃に思うこと



農業委員
半田 充（新穂地区）

軽トラックを運転しながら圃場を見ていると、畦畔の草丈が長いことが気になります。

以前は管理が行き届いて草刈りの状況良かったように思います。今は大規模農家が増え、草刈り等には手が回らないのではと思っています。それぞれ経営方法は違いますが、個々で農地の管理を怠ると荒廢化に繋がり、近隣耕作者などに迷惑を掛けることと成りかねません。

国仲地区圃場の一面を見ると、クサムネやセイタカアワダチソウ等の草が生い茂って荒廢化が進んでいる遊休農地があり、周囲での不評を買っています。私達も地域の人達に意見を聞いたり、所有者との解決策がないかを模索しています。所有者とは利用権設定や草刈委託、転作や売買などの方法を説明して話し合いを進めましたが、話には応じていただけません。近隣の方々は、病害虫や環境悪化等で困っており

れます。また、再生可能かと大型営農者に伺いましたが、重機で掘り起こして整地したりするので、経費や時間を要することでした。

これからの営農経営は少子化が進むことによる担い手不足が問題となっており、管理しやすい環境で作付けしやすい場所に集中するものと思います。経営面や生活などを考慮すればごく当然のことですが、とにかく農地の放棄・荒廢の防止に努めてもらいたいと思います。

近年米価は下がり米の消費は増大しない状況ですが、世界では食糧不足であり、何か米や米粉等付加価値製品での輸出需要は見込めるのではないかと！農地は管理しなければ荒廢し、環境汚染や水害に繋がっていくのではないかと！

農地の放棄や荒廢化が進まないよう、環境保全は皆で協力し、方策を取り入れ、住みよく暮らしやすい場所にして行かなければという考えの頃です。



農地パトロールに参加して



農地利用最適化推進委員
森田 聡（新穂地区）

農地の耕作放棄地・荒廃地や転用地等を農業委員と推進委員で見て回り、状況による見方と農地法に基づいた適正な判断について参加者全員で学習する機会もありましたが、地域の農業の担い手として活躍する農業法人2例の話が聞けたことが自分としては大いに有意義でした。

私事ですが、三年前より地域の仲間と担い手として農業法人を立ち上げて共同作業等を行っています。機械や設備の大型化や労働力の確保等、色々な問題が出てきています。

特に労働力の確保！今のところ地域や知人のこねで何とかお願いしているのが現状で、組合員だけではとても手が足りません。これからは高齢化や後継者不足等で出てくるであろう農地を預かって規模拡大の計画はあります。そのためには、若い人材が必要で、育てたいと思っているのは当組合員共通の意見ではありますが、どのようにし

たら人材を確保できるか・・・？

そんな中での今回の農地パトロールでの視察研修。

一例目 テクノサド株

「他産業からの農業部門進出で、徹底した6次産業化による利益率の追求」

年間を通して作業有り、専属社員6名＋季節アルバイト、社内製造員の応援有り。

水稲32畝、果樹4.6畝、干芋。もみ殻堆肥を製造し一部を除いて全てを自社直売所等で販売。つまり、商品にして自分が付けた価格で売ることができ

る。話の中で、米価の下落は大変痛い、自社も自社販売でなければ・・・と。自分も含めてJAへの出荷のみ農家には少々耳が痛い話だ。

二例目 (有)齋藤農園

「地元集落をまき込んだ持続可能な農家を目指す農園」

通年雇用を目指すその為には複合経営が必要。

特に、園主齋藤氏の収量や効率よりも品質やSDGs持続可能な農業の実践等「手間を手間と思わない」手間暇をかける大切さが経営理念！こだわり

の強さに感服！

学ぶところ多々、ヒント大いに参考にさせていただきます。

今回訪問の2法人以外にも先進的な方向・活動性を持った生産組織や農業法人があるので、それぞれの考え方を機会があったら聞いてみたいと思います。

農業委員の活動について



農業委員
濱田 嘉夫（小木地区）

農業委員として小木地区を担当し、農業・農地を見守っていますが、なかなか思うように行きません。離農する人が毎年いて対応が難しく、農地の保全管理も難しくなっています。高齢化や担い手不足は大きな課題です。

私の住んでいる集落では、このような様々な課題への対応を、水稲生産組合で進めています。若者たちを集落外から受け入れて、農業の活性化を進めています。空き家の利用について所有者から管理を一任してもらい、新規受入

全国農業新聞とは…

地域農業者の代表機関である農業委員会のネットワークが発行する、習慣の農業総合専門誌です。農家の思いを伝え、農業・農村の「未来」を共に考えます。

週刊 月4回 金曜日発行
月700円、年8,400円

■購読のお申し込みは、佐渡市農業委員会へ、お気軽に連絡ください。



者に活用してもらうことによる集落の活性化など、今自分たちがやれる事を今後の若者たちに残していきたいと思

カメラ スケッチ

6次産業に取り組む
「テクノサド(株)」様での研修



自然栽培に取り込む
「齋藤農園」様の圃場での実地研修



山林になってしまった「田」



農業委員活動に貢献された方々が表彰されました。
全国農業会議所より中川治委員(羽茂)へ全国農業
新聞の普及活動に対し、感謝状が送られました。

編集後記

長引くコロナ禍や不安定な世界情勢の影響もあって物価は値上がりが続け、高騰は私たちの生活にも打撃を受け、この先どうなるのか心配です。そして、農業者の高齢化、担い手不足、耕作農地の減少など農業情勢、環境はこれからも厳しい状況が見込まれます。

農畜産物の安定的な振興対策が必要であると思っています。

佐藤洋子(小木)

